

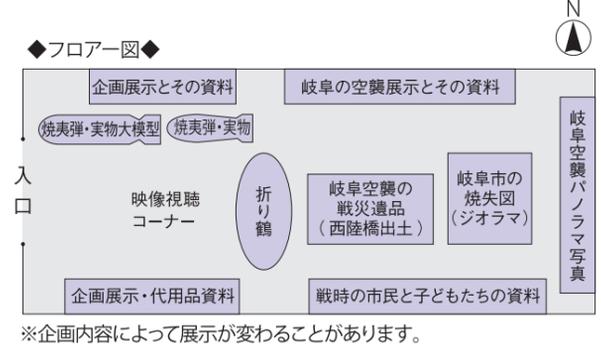
ご案内

20世紀は、核兵器が生み出された「戦争の世紀」でもありました。原爆が投下されたヒロシマ・ナガサキをはじめ日本中の街が爆撃されて、国内だけで50万人とも言われる人が亡くなりました。

この岐阜市も例外ではなく、昭和20年7月9日の「岐阜空襲」により、ひと晩で街が焼け野原と化し、約900人もの尊い市民の命が失われました。

岐阜市平和資料室では、各方面のご協力により、当時を色濃く残す品々を集め展示しています。生々しい戦争の爪跡を感じていただける資料の数々です。

ぜひ多くの方々にご覧いただきたく願っています。そして、この展示が平和への願いを新たにすきっかけになりますように。



〈平和の折り鶴〉

入口から正面にあります。折り鶴は多くの市民から、平和を願って毎年寄せられます。

〈企画展と常設展〉

折り鶴から手前が〈企画展〉。毎年、展示替えをしています。その奥が〈常設展〉。「岐阜空襲と戦時の暮らし」がテーマです。

◆岐阜空襲の概要

米航空軍第21爆撃機集団「作戦任務報告書」より作成

攻撃部隊	第21爆撃機集団 第314群団
爆撃機数	129機 (マリアナ基地発進機数/135機)
攻撃日時 (日本時間)	1945 (昭和20年) 7月9日23時34分～10日1時20分
爆弾投下高度	4,000m～5,300m
天候	晴れ、視界を妨げるものなし
爆撃中心点 (MMP)	061062 (徹明通りと金華橋通りの交差点)
投下弾	
E46集束焼夷爆弾	2,387発 477.4トン
M47焼夷爆弾	12,221発 421.4トン
計	14,608発 898.8トン
与えた損害	5.34 km ² 市街地 5.00 km ² (市街地の74%) 周辺地 0.34 km ² 岐阜駅および広場、共同毛織、富士ガスなど市内の16工場を破壊した。 (商店街、住宅地への攻撃には触れていない)

平和都市宣言

緑豊かな金華山と清流長良川に代表されるわたしたちのふるさととは、自由と平和をとうとぶ風土をはぐくみ、活力に満ちた住みよいまちづくりを目指しています。この美しい自然を愛し、自由と平和を求める心はわたしたちのみならず、人類共通の願いであります。

わたしたちの岐阜市は、世界の各都市と友好・姉妹都市提携を進め、相互の信頼を深めつつ平和への道を歩んでいます。市制施行百年を迎えるに当たり、すべての核兵器と戦争をなくすことを訴え、世界の人々とともに真の恒久平和が達成されることを願い、ここに「平和都市」を宣言します。

昭和63年7月1日 岐阜市



岐阜市平和資料室

〒500-8521 岐阜市橋本町1-10-23 ハートフルスクエアG (2階)

■開館時間 午前9時～午後9時

■休館日 毎月最終の火曜日 年末年始 (12/29～1/3)



『岐阜空襲 80年平和動画』を制作しました



↑ 岐阜空襲の概要や体験談の動画を市公式YouTubeで公開しています。

資料紹介

〈資料解説〉岐阜空襲を記録する会

1. 焼夷弾



〈上〉M-47 焼夷弾：実物
〈右〉E-46 集束焼夷弾：実物大模型

2. 戦時の暮らしと子どもたち

生活用品も、子どものおもちゃも、「戦争一色」でした。



土人形
日本の兵隊さんが、敵をやっつけています。



爆弾型の貯金箱



〈上〉将棋のコマ
「地雷」「スパイ」「軍旗」。遊びも戦場用語を使います。



戦時のチラシ
市民の気を引き締めるため、町内の家々に回覧されました。



千人針 糸の結び目をぬい付けた布。多くの女性にぬってもらいと、兵士の「弾よけ」になると言われました。

3. 戦災の遺品



〈左〉焼けたコンパクト
中には焼けた、当時の新聞が入っています。パフの代用です。
〈下〉溶けたガラスビン
空襲の高熱で、ビンも溶けました。

4. 代用品

戦争がはげしくなると、兵器を造る金属が不足します。そのため日本中の家庭からナベや鉄板など金属製品を提供させて兵器に変えました。生活用品を、ガラスや陶器などで造ったものを、「代用品」と言います。落としたり割れる、危険な物でもありました。

〈右上〉陶器の「一銭硬貨」
〈右下〉ガラスの水とう

貝がらの「おたま」
これで、みそ汁などをすきました。

